

[4] 串間市小体連（学校数8校 児童数734名）

【研究部のあゆみ】

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成
～主運動につながる動きの向上を目指して～

2 主題設定の理由

串間市小体連では、昨年度より、スクールスポーツプランや串間市小体連で作成したパワーアップタイム遊び集を活用し、基本的な動きや技能及び主運動につながる動きの向上を目指した研究を進めてきた。

昨年度は、基本的な動きや技能の向上を中心に実践を行った結果、児童が楽しみながら体を動かす場面が多く見られ、基礎的な動きや技能の定着について、一定の成果が見られた。また、スクールスポーツプランを活用したことで学校として取り組むべき内容を再確認する機会ともなり、体育科の指導の方向性を明確にすることができた。一方で、基本的な動きや技能に重点を置いたことで、主運動につながる動きの向上までは、十分に図ることができず、昨年度の課題として浮かび上がった。

そこで今年度は、スクールスポーツプランやパワーアップタイム遊び集を活用し、主運動につながる動きの向上を目指す研究を進めることにした。

3 研究の目標

主運動につながる動きの向上を目指すことにより、運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成を図る。

4 研究の仮説

体育科授業において、スクールスポーツプランやパワーアップタイム遊び集を活用しながら、主運動につながる動きの向上を目指せば、運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童を育成することができるであろう。

5 研究の内容

- (1) 基本的な考え方
- (2) パワーアップタイム遊び集の活用

6 研究の実際

- (1) 基本的な考え方
「主運動につながる動き」について、「主運動に取り組む上で欠かせない動き」として共通理解をし、研究を進めた。

主運動につながる動きの例

- ・ サッカー、バスケットボール→ドリブルやシュート
- ・ バレーボール→アンダーハンドパスやオーバーハンドパス
- ・ マット運動（前転・後転）→ゆりかご、カエルの足うち など

- (2) パワーアップタイム遊び集の活用

串間市小体連では、主運動につながる運動遊びをまとめた「パワーアップタイム遊び集」を作成している（資料1）。パワーアップタイム遊び集には、主運動へのつながりや強化される力も記載されている。

スクールスポーツプランや児童の苦手に合わせて単元を選び、主運動へのつながりを考えて運動

遊びを実践した。実践したことを報告用紙（資料2）にまとめ、それぞれの運動遊びでどのような成果及び課題があったか共有した。実践の中には、パワーアップタイム遊び集にある内容のやり方をアレンジして行ったものもあり、それぞれの学校や学級の実態に合わせて取組を行った。

パワーアップタイム遊び集 No.4

運動名 「うろうろパス」 人数 … 2～6名 場所…体育館 準備物…ボール	主運動へのつながり ボール運動 期待される力 調整力・技能
---	--

☆ねらい☆

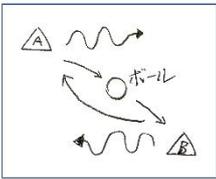
交流 一つのボールを友達と一緒に繋ぐ・迫り楽しさを味わう。

気付き ボールや仲間・敵の動きに対応した身のこなし方に気付く。

調整 味方の位置や動き確認しながらパスを繋げ、周辺視野を広げる。

☆やり方☆

1. 2人組で歩きながらお互いの存在を意識し、取りやすいパスを出す。(慣れてきたら動きを進める)
2. 4～6人の場合は、○対○で、バスケットを入れて対戦する。
3. 中・高学年はシュートを入れても良い。



☆気を付けること・運動のポイント☆

- 動ける範囲を指定し、その中をうろうろと動きながら相手・味方にパスを出す。
- 片手パス・両手(チェスト)パス・バウンドパスなど様々なパスを行わせる。
- 慣れてきたら味方の移動先を予想し、できるだけノールックを意識させる。
- ボートボール、バスケットボールの周辺視野を意識させる運動として取り入れる。

【資料1 パワーアップタイム遊び集】

学年	6学年
単元	バスケットボール
ねらい	ボールキープの動きの向上
活用した運動名 (パワーアップタイム遊び集から)	手つなぎドリブル ボール運動 No.13

活動の様子 ※写真




成果と課題 (○成果 ●課題)

- 「手をつなぐ」という制約があることで、体の自由がきかない状況でもボールをドリブルしてキープする技術向上につながった。
- その場だけでなく、歩かせたり競争させたりすることで、児童はさらに楽しく練習に取り組むことができた。
- 転がったボールに乗って怪我することが考えられるので、安全面に留意する必要がある。

【資料2 実践の報告】

また、活動内容の一部は、児童や学級の実態に合わせて、パワーアップタイム遊び集をアレンジし、教師が工夫して取り組んだ。

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- ・ パワーアップタイム遊び集を活用したことにより、児童が楽しみながら主運動につながる動きの向上を図ることができた。
- ・ パワーアップタイム遊び集の活動の中には、友だちと関わりながら取り組むものも多くあり、周囲の友だちと関わりながら運動遊び楽しむ姿が見られた。
- ・ 主運動を行う際に、運動遊びで身に付けた動きが発揮される場面が見られた。児童の動きの変化や上達を実感し、運動遊びでの取組が主運動の技術向上につながっていることが確認できた。
- ・ 活動内容を、教師が実態に応じて工夫したことで、より効果的な学習活動を展開することができた。

(2) 課題

- ・ 活動内容によっては、危険が生じる恐れのあるものもあり、安全に取り組ませるための環境づくりや指導の工夫が必要である。